

秋 田 県 書 道 連 盟 会 報

第 128 号 連 盟
 秋 田 県 書 道 連 盟
 事務局
 秋 田 市 泉 野 一 丁 目 18-1
 三 浦 湯 舟
 長 沼 雅 彦
 発行 人 長 沼 雅 彦
 編 集 広 報 部
 (題 字 : 長 沼 雅 彦)
<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>

鬼は外、福は内。 秋田県書道連盟理事長 長沼雅彦



この原稿を依頼されてから、コロナ禍のもと、なんとか工夫して・・・という二三年続いたパターンをくりかえすのもいかなものかと思っているうちに、節分が近づいてきた。それならひとつ書にとつての鬼を追い出し、福も呼ばないかと考えた。

というところで、以下はその形式で思い切って私見を述べさせていただくので、そのつもりで読んでいただきたい。

その一、毎年末にその年を漢字二字で表す、という企画がある。何人かの方がそれを自ら書いた色紙等を挙げながら発表している。が、たいていがその方の評価をさげるばかりのようである。字の書的巧拙を抜きにしても、手書きの文字に、はからずしも表れたその方の人格識見、感性に疑問符をつけざるをえない場合が多いようだ。

極め付きは、京都の名刹の貫主さまの字である。毎

年テレビで大きく報道されているので、皆さんもご存じと思う。大筆に墨をさんぶとつけて書き出すのだが、カンパスのように立てかけた用紙が墨をすわらないので、たちまち醜くだらだらと真つ白な紙面にたれ落ちてくる。そして大筆をまるで廊下を拭くモップのようにならないとひきずりまわす。ご本人は多分草書に近い行書で書いているつもりだろうが、今年の二字「戦」は単部の横画と戈の二画がながつていないので筆脈としてもおかしい。

いわば日本国民に二番目にふれる書のパフォーマンスがこれだからあきれるのである。何とかありませんか。

その二、先日テレビを見ていたらある孤島に住む漁師で詩人というご老人が紹介されていた。その詩人は大筆で何文字が大書きし、その傍らに中字でなにやら少し気の利いたような言葉を書いていた。その文字の拙さはさておき、(書家とはいっていないので)下手で俗な演歌の歌詞のように思えるその言葉に、さて詩とは何なのか、と思わず考え込んだ。

その三、お母さんが書道教室をやっている方で、ご本人は書道をやるともりがなかったのにある時、同じ会社の女性に筆で名前を書いてあげたら感動して涙をながされ、それを見て会社に辞表を出しお母さんのもとで書道を勉強し、書道家になった、という。(ご本人のブログ)今では書道家ではなく現代アーティストな

そうなので、書として批判はできないのかもしれないが、お習字的筆遣いに、なにやらくねくねと強調した不自然な動きを加えた字は、これ見よがしの素人だましの典型である。この原稿を書くにあたって彼のブログを見たが、女性問題で国会議員を辞めた代議士のごとく、ぺらぺらとしゃべりまくるその姿に書いたものが重なり身にあわだつものがあつた。

字を筆で書けば書家、短い言葉を書けば詩人。歌を歌えば歌手。我が国は自由であるが、なにが本物か見極める目は必要である。

さて最後に福を呼ぼう。秋田県新春書初め席書大会は、ことしも多くの作品を集めて開催された。上位に選ばれた作品は、その技術的力量が確かなのは言うまでもなく、紙面を確実に支配する注意力(気)が充実して見事であつた。どのくらい集中して作品を仕上げたか、その努力がしのばれるのである。

かならずしも、そこまでいかないうちの子供さんの作品でも、一人一人の性格がこちらのほうがかえって表れていて、好ましくかわい。ここに出品してくれた子供さんたちが将来、書の三千年の歴史、書の古典に触れてより深く書を通して自己を表現できるようにと、望みたい。福は内。



新春書初め展覧会授賞式にて、お祝いの言葉を贈る長沼理事長

第14回秋田県新春書初め大会

主催

秋田魁新報社
秋田県総合公社
秋田県書道連盟

会期

令和5年1月26日(木)～1月29日(日)
午前10時～午後5時
(初日は正午から、最終日は午後4時まで)

会場

さきがけホール

「書初めを通して伝統文化の再認識を図り、書道文化の振興並びに書写・書道教育の充実に寄与する」ことを目的に、毎年開催されています。今年も応募作824点。今ではもうすっかり新年の行事として定着しています。

また、ご提供いただいた俳句や短歌等を同連盟会員が書で表現した「書と文芸のコラボ」12点も展示されました。

1月15日(日)、審査、展示準備作業を行いました。



審査のスムーズな進行準備、審査後のスピーディーな入力作業を行う秋田魁新報社の皆様



こちらでお昼ごはんをいただきました



審査に入る前に、新春小品書展、秀作美術展の会計を行っています



長沼理事長が見守る中、審査と作品貼り付け作業を行いました

1月29日(日)、授賞式が行われました。

長沼理事長から「ここにいる皆さんの作品は、完成度が高く、一生懸命練習したことがよく分かります。若い皆さんが書に親しみ、頑張っていることを大変嬉しく思います。心から応援したい気持ちです。また来年も出品して下さい。」とあたたかいメッセージがありました。



こどもたち、保護者、関係者の皆様へあいさつをする長沼理事長



受賞者へ優しく話しかける佐川会長



授賞式の流れを丁寧に説明する青島さん



授賞式を見守る保護者・関係者の皆さま

幼児から一般まで、力作が一堂に展示されました



書と文芸のコラボ

展覧会終了後は、毎年、秋田魁新報社の皆様展示作品を丁寧に外してくれております。

第7回秋田県新春小品書展

主催
秋田県書道連盟

会期
令和5年1月26日(木)～
1月29日(日)

午前10時～午後5時
(初日は正午から、最終日は午
後4時まで)

会場
さきがけホール

「本展は拘束のない独自の発展を
重んじ会員相互の親睦と本県書道文
化の向上に寄与すること」を目的に、
毎年開催されています。今年は76点
の出品がありました。

〔受付当番〕

● 1/26 (木)

角田萩瑛 鎌田江葉 道川屋悟

伊藤雅人 保坂省峰

● 1/27 (金)

伊藤連紅 富樫春郷 山口美代子

● 1/28 (土)

角田萩瑛 小坂白悠 藤原瑛翠

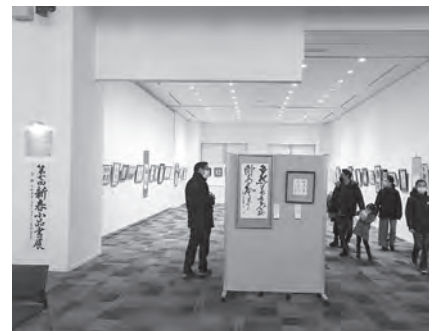
伊藤雅人

● 1/29 (日)

保坂省峰 山口美代子 道川屋悟



笑顔で来場者をお迎える展覧会部員の皆様



第85回秋田書道展覧会

※写真は秋田魁新報社提供

主催 秋田魁新報社

会期 令和4年10月29日(土)～11月2日(水)

午前10時～午後5時

会場 アトリオン

小学生から一般まで腕を振るう県内最大規模の公募展です。審査主査の杭迫柏樹さん(京都市)と県内書家が審査し、入賞384点、入選161点が決まりました。

本連盟会員の魁星賞、一般一科(推薦、特選、秀作まで)を紹介します。おめでとうございます。

▼魁星賞

「魁星賞を受賞して」



小松 瑠 秋

まず初めに連盟の大勢の方々からお祝いのお言葉を頂戴し、この場をお借りして心から厚くお礼申し上げます。

この度、この漢詩にこだわり、作品に纏めたく四苦八苦し、何度も構成し直し仕上げたものです。

私が表現しようと心掛けた「書の表現技術」

が主査の講評において評価いただいたことは得難い喜びでした。

今回2回目の魁星賞に恵まれましたのも、ひとえに今は亡き秋田師山先生はじめ、多くの方々からのご支援ご指導の賜物と感謝しております。

時間の砂が流れ落ちるような昨今、年齢を重ねる毎に味わいのある作品に近づけたら本望ですが・・・。

「耕不尽」

三 浦 健 幸

この度、魁星賞を受賞しましたが、唯々、驚くばかりで、今でも信じられません。



題材選びから構成、字典を引

いてと、自分で書くのは、結構大変です。一度書いてみて、もつと、他の書き方があるのではと、また、字典で調べます。ようやく何とか書いて、先生に見て貰いますが、幾度となく直され続け、結局、裏打ちギリギリまでかかりました。

裏打ちの時に、額に入れられた作品をもう一

度見直してみましたが、あまりいいとも思えず、『これは、まず駄目だな。』と書いていました。ましてや無鑑査になって始めての出品です。絶対受賞はないという確信がありました。

今回の作品でも、直したいところは、数多くあります。さらに、工夫を重ねて行きたいと思えます。が、直しても直しても、翌日には、これでは駄目だと思うので、きりがありません。

一般一科

【自運漢字】

▼推薦

佐藤 晃山(井川町) 田村 芳汀(秋田市)
一ノ関清山(秋田市)

▼特選

横山 由希(男鹿市) 佐藤 珠苑(北秋田市)
木村 光楊(湯沢市) 山口美代子(秋田市)
鎌田 江葉(秋田市)

▼秀作

道川屋 悟(秋田市) 吉田 倅舟(潟上市)
野村 玉泉(秋田市) 佐々木汪心(秋田市)
佐々木嶂芳(秋田市)

【臨書漢字】

▼推薦

鎌田 江葉 (秋田市)

▼特選

小玉 豊光 (五城目町)

▼秀作

佐藤 晃山 (井川町) 成田 昌子 (男鹿市)
川田 直政 (秋田市) 古田 柯香 (秋田市)
小坂 白悠 (秋田市)

【自運かな】

▼特選

宇佐美桂月 (秋田市)

▼秀作

嶋野 青城 (秋田市)

【臨書かな】

▼秀作

嶋野 青城 (秋田市)

【大字書】

▼特選

堀井 直子 (由利本荘市)

▼秀作

石川 抱鶴 (秋田市)

【調和体 (近代詩文)】

▼特選

三浦 芳流 (由利本荘市)

▼秀作

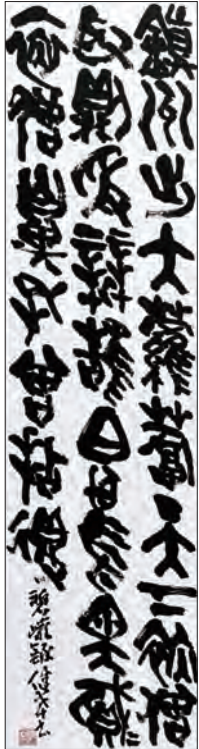
柿崎 真翠 (秋田市) 加賀谷里秋 (能代市)
岡本真貴子 (由利本荘市) 熊合 貞子 (由利本荘市)

魁星賞作品

「林鴻詩」 小松 璐 秋 (秋田市)

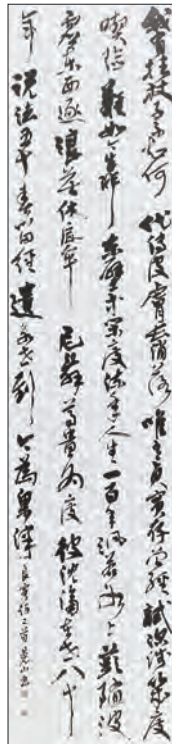


「碧巖録」 三浦 健 幸 (秋田市)

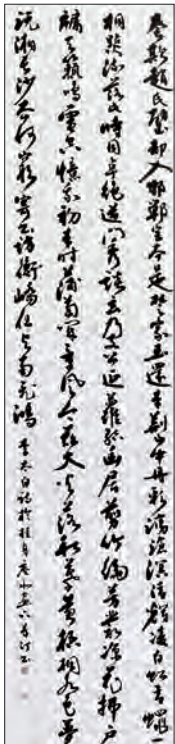


推薦作品

「良寛詩二首」 佐藤 晃 山 (井川町)



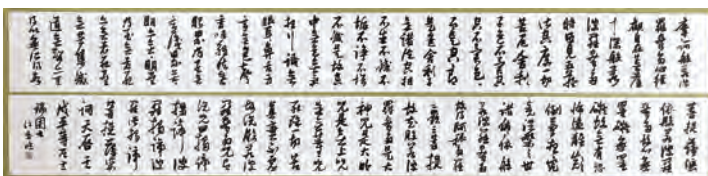
「李太白詩」 田村 芳 汀 (秋田市)



「西征賦」 一ノ関 清 山 (秋田市)



「張瑞圖」 鎌 田 江 葉 (秋田市)



会場風景

第1会場 一般一科、小・中学生半紙、賛助、招待、無鑑査



第3会場
高校生条幅、一般二科



第4会場
一般一科、一般二科



第2会場 小学生条幅・八つ切り・硬筆、中学生条幅



第9回日本美術展覧会

主催 公益社団法人 日展

日展は、明治40年から続き、115回目を数える美術展。日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の5部門があります。東京（国立新美術館）の後は、京都、名古屋、神戸、富山で巡回展が開催されます。

本連盟会員から3名の方々が入選しました。おめでとございます。

「加藤ファミリーに感謝」

奥山朱鳳



我が窓友会は師亡き後、趣味の会と馬鹿にされながらも「一寸の虫にも五分の魂」の精神で、地道に努力を重ね今日に

到っている。

結束力の点に関しては全県一と自負しているし、審美眼を持つ者、忌憚のない意見をビシバシ言える教室の雰囲気、古典等で疑問など生じた際は徹底的に調べたり質問したり勉強熱心な者、漫才よろしく爆笑を醸し出す中で意にも介さず平然と書に没頭する者、食も忘れてひたすら書きまくる者、書くことより茶菓子を楽しむとする変人？等、実に個性的である。

三年前から私より若くて実力のある人に活躍してもらいたい一心で出品し始めた日展。

今回の作品は試作三点の中で最も詩文が良いと会員から推してもらったのだが、奇しくも日展の審査員の審美眼と一致した驚くべき結果に推した本人はもとより、前会長をはじめ会員一同の喜びは頂点に達した。加藤秋窓先生も天国できっと「ブラボー」と叫んでいるに違いない。そして良くぞやったと。

「日展に入選して」

小松 璐 秋

ハラハラドキドキ毎年発表時味わうこの感情！4年ぶり2度目の入選できたことは大きな喜びでした。

初めて卷子作品に挑戦し、選文、構成、電卓片手に行数を決め、いざ着手してみたら纏めるのに難渋致しました。

縦28cm360cmの紙面に静、動、間を意識し、無理のない自然な展開、古典を滲ませ自分の世界を淡々と表現しようと努力したつもりですが、理想には届かず、頭を抱えながらの締

め切りです。

いつも思うことですが結果が全てではなく、こうした試行錯誤する事、一生懸命書くことに意味があると思っております。

日展は「古典に立脚し修練した技法で何を表現するのか」を求めており、会場で自分の作品と向き合い、回りの作品に比べ余裕のない線に恥ずかしく、更なる修練が必要であると改めて認識した次第です。

コツコツ続ける以外方法はありません。体の痛みに耐え書くのみです。

どうぞこれからもご教示賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「書作後の感覚」

山口 顕 正



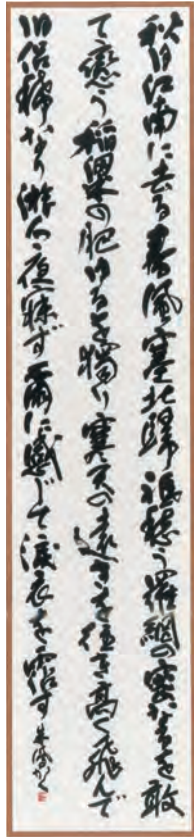
この度の第九回改組新日展におきまして、入選することができ、大変嬉しく思っております。

いつものことながら、作品制作への取り組みが遅く、締め切り直前に慌てて書く始末でし

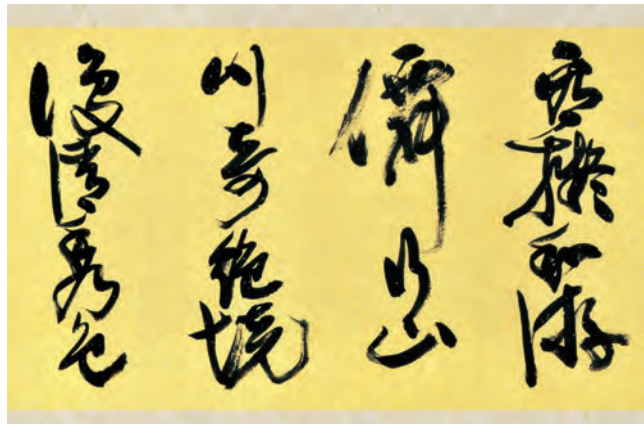
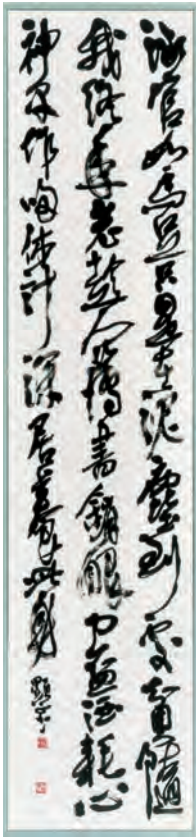
た。制作前のイメージでは気分良く書けそうにもなかつたため、今年も諦めの気持ちで先行していました。天候や仕事のせいにして、中々、筆を執らない日々でしたが、落選した年と違うことは、書き終えた後の作品の印象が薄かったということかもしれません。不思議と苦労して書いた感覚がなかったことから、無駄な力が入らず、素直に書くことができたのかもしれないと思っております。

展示された作品をすぐに写真で送っていただき、確認したところ、作品に合った表具に助けられた感もありました。様々なことが重なって入選できたと思います。今回の作品制作を次に生かせるように今後も励みたいと思います。

鄭作詩 奥山朱鳳



姚合詩 山口顕正



張宣詩 小松 璐秋

一般書道総合誌
教育書道

書友

70年の歴史をもつ秋田県随一の月刊書道誌
書写指導に好評を得ております。

書友社

〒010-0954 秋田市山王沼田町11-11
TEL 862-3484 FAX 862-3485

那 墨痕あざやか 波

あなたの筆勢を伝える筆。
「書」の心をうつす墨、紙。

那波紙店

〒010-0921
秋田市大町四丁目3-35
☎ 018-823-4311(代)

総合書道用品販売

- ◎展覧会・企画・展示
- ◎〈表具〉〈額装〉〈軸装〉
- ◎各種展覧会搬入搬出承ります
- ◎文房四宝・低価格にて提供しております

株式会社 クラヤ

〒010-0952 秋田市山王新町4-5
TEL 018-863-6001 FAX 018-863-6004
ホームページアドレス <http://www.1ocn.ne.jp/~kuraya>
メールアドレス kuraya@seagreen.ocn.ne.jp

これまでの主な展覧会 (連盟会員所属団体)

汎山書道教室 第16回書潤の会書道展

(R4.12.2~5 アトリオン)



第3回秋田の書展

(R4.9.10~12 秋田県立美術館県民ギャラリー)



千田寿山小作品展

(R4.12.24~R5.2.28 井川町農村環境改善センター町民ギャラリー)



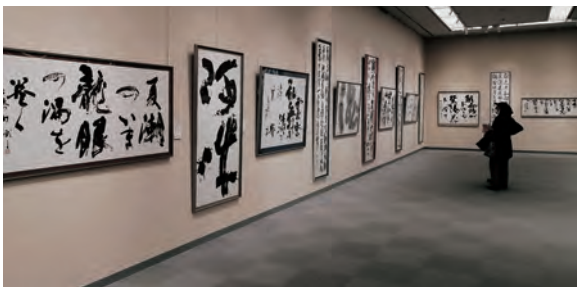
第40回記念秋田墨滴窓友会書道展

(R4.11.4~6 花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」別館)



第18回毎日書道秋田新春展

(R5.1.13~1.16 アトリオン)



長沢薫書展—中ノ蔵 書空間への誘い—

(R4.11.1~30 横手市歴史的風致形成建造物旧片野家)



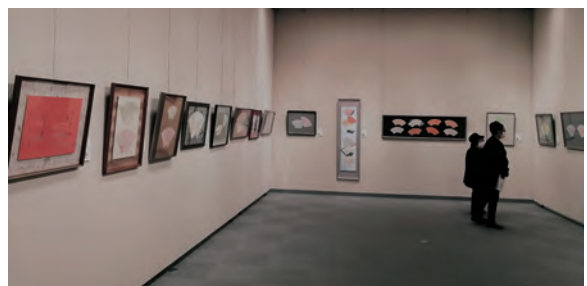
第45回瀾の会書展

(R5.1.20~1.22 アトリオン)



第21回秋田一先会書展

(R4.11.26~28 アトリオン)



広報部より前回会報(127号)の訂正とお詫び

(誤) 第37回読売書法展

東北展は10月27日(水)～30日(日)

(正) 第38回読売書法展

東北展は10月26日(水)～30日(日)

大変申し訳ありませんでした。

今後開催予定の主な展覧会

第36回秋田一東書道会展

令和5年5月12日(金)～5月14日(日)

アトリオン2F

総務部・IT部に届いている展覧会を掲載しております。ご了承願います。

会員募集

日頃から本会の運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本会は、より多くの書道を愛好する皆様に活躍と研修の場、作品発表の場、会員相互の情報交換の場などとしていただくため活動しております。

会員は随時募集しておりますので、事務局までお問い合わせ下さい。ホームページもごらん下さい。

事務局 秋田市泉菅野一丁目18-1 三浦 湯舟

ホームページ <http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>

編集後記

令和5年、新たに4件の国宝が指定されました。うち3件は書跡・典籍の部で「喪乱帖」「更級日記」「万葉集巻第二、第四残巻」。東京国立博物館で盛大に開催された国宝展も記憶に新しいかと思えます。そんな中、国宝を維持する予算が厳しいというニュースが流れ話題となりました。書を愛する我々が、美術館博物館に足を運び名品に触れることも大切なことだと改めて思いました。

また最近「新3K」という言葉を耳にします。その中の一つ、希望が持てる。若い世代が希望を持つことができる書道界。真剣にこれからの若い世代のことを考えている方が多ければ多いほど、小さな光がやがて大きな光になると信じてやみません。

さきがけホールに展示された秋田県新春書初め展覧会でのこともたちの力作は輝かしいものがあります。益々の芸術文化の発展を願っております。

(広報部一同)

情報社会に育つ

株式会社 塚田美術印刷

本社工場 / 〒010-0921 秋田市大町一丁目6番6号

TEL 018(823)5551(代)

FAX 018(823)5553

URL : <http://www.akita21.com/tsukada/>
E-mail : tsukabi@cna.ne.jp

美術表装一式

掛軸、和額、屏風、襖

中山表具店

〒011-0917 秋田市飯島道東二丁目4番10号

TEL 018(846)8496